

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 12 月 22 日作成)

小委員会名	建築手法・技術小委員会		主 査 名：阿部浩和 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育委員会		委員長名：元岡展久 主 査 名：
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	教育カリキュラム、教育技術、教育制度など、建築教育の基本的な課題・問題について、幅広い観点から、調査研究を行う。 2015 年度：多角的に課題を探り、情報共有化を行う 2016 年度：事例収集、課題にたいする対応策の検討 2017 年度：最終とりまとめ		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：		
	主 査 阿部 浩和 (大阪大学) 幹 事 安福 健祐 (大阪大学) 浦江 真人 (東洋大学) 小林 正美 (明治大学) 澤田 英行 (芝浦工業大学) 田村 雅紀 (工学院大学) 根岸 俊行 (群馬県立館林商工高等学校) 浜島 一成 (日本大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	B I M設計教育WG 建築技術・技能WG 材料教育WG		
2016 年度予算	230,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajij.or.jp/edu/s0/	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会	1. (名称) 第 16 回建築教育シンポジウム 参加者数 33 名 同 資料
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 建築教育シンポジウムを開催し広く建築教育に関する研究成果を発表した。 2. 同シンポジウムにおいて『こども・建築・環境・教育』をテーマに仙田満先生をゲストに招待講演会を行い、次世代の実践者や研究者の担う役割について議論した。 これらは当委員会の対外的意見表明である。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築教育の分野ごとに、WG を組織し、WG を主体として、建築教育の問題点を検討するとともに分野間の情報共有を行い、大学連携、産学連携など実施可能な試みを探ることができた。 2. 第 16 回建築教育シンポジウムを開催し、建築教育に関する研究論文としての成果がえられた。
委員会活動の問題点・課題	WG 数はやや少なかった点、分野に偏りがあった点で課題が残った。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。